

「レッドデータブックあいち 動物編 2002」(愛知県)

哺乳類 <齧歯目(ネズミ目) リス科>

愛知県：準絶滅危惧 (環境省：リスト外)

ムササビ *Petaurista leucogenys* (Temminck)

【選定理由】

ムササビの生活はスギ林に依存しており、都市近郊では社寺林として残されたスギ林を主な生活場所としている。こうした社寺林はたとえ境内の樹木が保存されていても、その周囲が宅地化などによって開発されたり、飛び移れる樹木が失われることによって生活可能域の分断・孤立化が起こり、地域個体群が分断・縮小・絶滅へすすむと考えられる。

【形態】

頭胴長 340~483mm、尾長 280~414mm、後足長 60.5~71.0mm、耳介長 35~43mm、頭骨最大 66.0~68.6mm(阿部,2000)。大型でモモンガ同様、前肢の手根部から後肢の膝にかけて飛膜を持ち、滑空することができる。背面の毛色は褐色系であるが地域によって変化し、腹面は白色。切歯孔はきわめて小さく、歯隙長の 1/2 以下。下顎の角突起は幅広いが、モモンガのようにねじれない。歯式は I1/1, C0/0, P2/1, M3/3=22。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山村、豊根村、津具村、東栄町、稲武町、設楽町、鳳来町、作手村、旭町、小原村、藤岡町、足助町、下山村、額田町、豊田市、豊川市、豊橋市、瀬戸市、犬山市。

【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する。

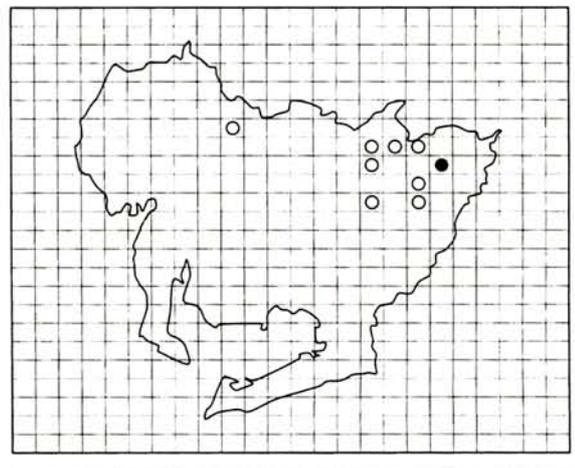
【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境/生態的特性】

低地から亜高山帯までの山地帯森林に生息し、夜行性。樹上性で、樹洞もよく利用するほか、樹上につくった球状の巣を利用する(阿部,2000)。樹木の葉、芽、花、果実、樹皮、種子などを食べる。生活はスギ林に依存しており、スギの樹皮は巣材としても食用にも用いられ、雄花と若枝の根元は特に好んで食べる。冬と初夏に交尾し、74日ほどの妊娠期間をへて、1回に1~2仔を産む。雄が生殖可能になるまでに2年近くを要する(Kawamichi,1997)。

県内分布図



【現在の生息状況/減少の要因】

県内での分布は比較的広く、5市8町6村で生息が認められている。都市近郊ではスギの大木のある社寺林で生息の認められることが多く、こうした場所ではスギの樹皮の剥皮跡が認められたり、糞や若枝の先端が落ちていたり、板壁に穴があげられているのでムササビの生息が確認できる。スギ林に依存した生活を送っているために、スギ林そのものやその周囲の森林・林の伐採はムササビの移動を制限して隣接する個体群との遺伝的交流を減らして孤立化させ、ついには絶滅に至ると考えられる。

【保全上の留意点】

周囲に森林や林の存在しない島状の生息地(例えば都市近郊の社寺林で周囲が田畑や宅地に囲まれている場所)となるような生息場所では樹木の伐採によってムササビの移動が制限されないように留意すべきである。

【特記事項】

日本哺乳類学会では普通種とされている(川道,1997)が、1994年度からは狩猟獣から除外されてニホンリスとともに狩猟対象ではなくなった。

【引用文献】

- 原田猪津男, 1996a. ほ乳類. 稲武町史・自然・資料編, pp.377-380. 稲武町, 愛知県北設楽郡稲武町。  
原田猪津男, 1996b. ほ乳類. 設楽町誌『自然編』「資料編」, pp.585-593. 設楽町, 愛知県北設楽郡設楽町。  
川道武男, 1997. リス亜目 SCIUROMORPHA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.67-75. 文一総合出版, 東京。  
Kawamichi, T., 1997. The age of sexual maturity in Japanese giant flying squirrel, *Petaurista leucogenys*. Mammal Study, 22: 81-87.

【関連文献】

- 宮尾嶽雄, 1973. 松本市周辺のムササビ, 日本哺乳類雑記, 第2集, pp.28-35. 信州哺乳類研究会, 松本。  
宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-325. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋。